

[ゲンロク]

2018
FEB
No.384
2
定価 860Yen

GENROCK

保存版!

最新スーパーカー全情報

SUPERCARS FACTBOOK 2018

フェラーリ812スーパーファスト

ランボルギーニ・アヴェンタドールS

ランボルギーニ・ウラカン・
ペルフォルマンテ

マクラーレン720S

アストンマーティン・ヴァンテージ

メルセデスAMG GT R

ポルシェ911GT3

ブガッティ・シロン



ランボルギーニ・ウルスついにデビュー
最強オープン対決 AMG GT Cロードスター vs R8スパイダー
BMW M5の実力 / ポルシェ特選ショップ



HYPER FORGED HF-DiC for Mercedes-Benz G-Class

SIZE LIST

19インチ(7.5J×14.0J)	13万8000円～19万8000円
20インチ(7.5J×18.0J)	14万3000円～20万8000円
21インチ(7.5J×14.0J)	17万3000円～24万8000円
22インチ(8.5J×14.0J)	22万4000円～24万8000円

※税別価格。

スーパーカーからタフギアまで ザ・オールマイティ

ハイパーフォージドとしては初のアシンメトリー(左右非対称)デザインを採用したHF-DiCが好評だ。傅まった姿でも走りを感じさせる表情が、世のスーパースポーツを輩出するハイエンドカーを引き立ててきた。

しかし今回、HF-DiCが装着されたのはスーパースポーツ系とはまるで正反対に思えるGクラスだ。正確には、全身くまなくブラックで統一されたAMG G 63だった。スタイリングは直線基調で、頑固なまでに昔ながらの姿カタチを踏襲する。だからこそ約40年にわたって支持されてきたGクラスだが、新鮮で躍動感にあふれるHF-DiCが意外なほど似合ってしまう。

毎骨なGクラスの車体に受け込ませるためのコーディネイトに抜かり

はない。ディスク面はシットビー

ニング・アナダイズドブラック。つまりシットビーニングによって、表面にざらざらとした質感を与えつつ、ハイパーフォージドお得意のアルマイト処理を組み合わせた。アウターリムはアナダイズドブラック、インナーリムもマットブラックで統一した。深突きを抑えて硬派に仕立てた、まさにGクラスにぴったりの色合いと思える。サイズは前後とも11・0J×22インチ。ディーブコンケープの造形は立体感にあふれ、真に滑むAMGレッドキャリパーとの相性も抜群だ。組み合わさるタイヤは305/40サイズのピレリ・スコルピオZEROだった。

それにしても車高を量にして2580mm。走行時には30近い重さを持つクルマである。さらにAMG G 63の最高出力は571psにまで及ぶ怪力の持ち主だ。また、一般的な乗用車では到底立ち入れない悪路まで突破する性能を秘めている。そうした意味では、ホイールにとっては最



装着されるのは前後とも11.0J×22インチ。やみくもな太さを求めず305/40サイズのピレリ・スコルピオZEROと組み合わせる点が大きい。オンオフを問わないGクラスの方向性を活かした設計だ。



ある一定の範囲内でサイズやFCDなどのオーダーができるのがハイパーフォージドの強み。Gクラスはメルセデスで唯一PCD110を採用するが、ボルトホール周辺のデザインを見る限り、どこにも無理はない。



ディスク面やインター&アウターリム、ピアスボルトに至るまで自由に色や仕上げをチェイスできる。逆に言うと乗り手や乗り手のセンスが問われる。黒基調で統一した今回のAMG G 63はひとつの成功例だろう。

新のスーパースポーツ勢よりも条件は厳しい。HF-DiCは、他のハイパーフォージド製品と同じく、そうした厳しい条件を悉く受け止めるだけの強度や剛性、さらに長期的な耐久性が確保されている。もちろん先のフィニッシュは傷が付きにくく、また防錆性も抜群だ。重やかな造形の真地に滑む、こうした「強さ」があるからこそ、Gクラスにこそ似合うのだろう。今回のコーディネイトは、HF-DiCの憧れの深さで、さらにはハイパーフォージドの多様性を、あらためて知らせてくれるものだった。